

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス いまこplus		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ～ 2025年 12月 19日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2025年 10月 17日 ～ 2025年 12月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
7 1	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	日々の支援記録や行動観察を通して、こどもの特性や課題を職員間で共有している。また、保護者との連絡帳や面談を通じて家庭での様子やニーズを把握し、個別支援計画に反映している。さらに職員間でケース検討を行い、客観的な視点を意識しながら支援計画の作成を行っている。	アセスメントや記録の方法を見直し、より客観的なことも理解につなげていく。また、保護者との情報共有の機会を継続的に確保し、ニーズの変化を支援計画に反映していく。さらに支援計画の定期的な振り返りを行い、必要に応じて内容の見直しを行っていく。
10 2	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	こどもの興味や発達段階、保護者から伺ったニーズに応じて活動内容や進め方を柔軟に調整し、ねらいや5領域を考慮しながら活動内容を検討している。また、職員間で活動の振り返りや共有を行い、活動内容が固定化しないよう意識している。	活動内容の検討や情報共有の機会を継続的に設け、新しい活動プログラムの導入につなげていく。また、保護者からいただく意見もこれまで同様に丁寧に受け止め、家庭と連携したより良い活動づくりに努めていく。
21 3	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	連絡帳やinstagram等を活用し、日々の活動内容や行事予定、連絡事項について定期的な情報発信を行っている。また、自己評価の結果についても、HPやinstagramで必要な情報が適切に共有されるよう努めている。	情報発信の方法や内容について定期的に見直しを行い、より分かりやすく、見やすい形での発信を検討していく。また、ホームページやinstagram、公式LINE等を活用し、事業所の取り組みや支援の様子がより伝わるよう工夫を重ねていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
11 1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	現時点では、放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他のこどもと活動する機会には設けられていない。安全面やこどもの特性への配慮を優先し、事業所内で安心して過ごせる環境づくりを重視した支援を行っている。	今後は、こどもの発達段階や特性を十分に考慮した上で、地域資源の把握や関係機関との情報収集を行い、交流の在り方について検討していく。無理のない形から段階的に地域とのつながりを持てる機会づくりを目指す。
14 2	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	現時点では、家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や、家族が参加できる研修会の実施には至っていない。一方で、連絡帳や面談等を通じて、日々の支援の様子やこどもへの関わり方について情報共有を行い、家庭での関わり方の参考となるよう意識している。	今後は、保護者のニーズや負担感に配慮しながら、情報提供の方法や内容について検討を進めていく。必要に応じて、資料配布や個別相談、外部研修や関係機関の情報提供など、無理のない形で家族支援につながる取り組みを検討していく。
18 3	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	現時点では、父母の会の活動支援や保護者会の開催、きょうだい向けイベント等は実施していない。一方で、連絡帳や個別面談を通じて、保護者との丁寧な情報共有を行い、家庭での状況や困りごとを把握するよう努めている。	今後は、保護者同士やきょうだいが安心して関われる機会について、ニーズや負担感に配慮しながら検討していく。必要に応じて、情報提供や交流の場の在り方を段階的に検討し、家族支援の充実につなげていく。